

韓国人慰靈の塔



平和祈念堂をバックにして建っている。石塚を中心に韓国の各地域から集められた石が並ぶ、塚の前の円形広場にはさまよえる魂のために故国への方向を示す矢印がある。
朝鮮半島から強制的に連行されてきた人々はもっとも立場の弱かった。そのためもっとも危険にさらされ、かつ虐殺された人もいた。

【韓国人慰靈の塔碑文】

1941年太平洋戦争が勃発するや多くの韓国人青年達は日本の強制的徴募により大陸や南洋の各戦線に配置された。この沖縄の地にも徴兵、徴用として動員された1万余名があらゆる艱難を強いられたあげく、あるいは戦死、あるいは虐殺されるなど惜しくも犠牲になった。祖国に帰り得ざる魂は、波高きこの地の虚空にさまよいながら雨になって降り風となって吹くだろう。
この孤独な靈魂を慰めるべく、われわれは全韓国民族の名においてこの塔を建て謹んで英靈の冥福を祈る。

願わくば安らかに眠られよ 1975年8月 韓国人慰靈塔建立委員会